

バレンタインデーと恵方巻き

えほう

時代の移り変わりとともに、季節を彩るさまざまな風物詩もゆるやかにその姿、形を変えつつあります。

このコーナーでは多様化する風物詩や行事、また自然の変化についてご紹介します。

今回は様変わりする日本のバレンタインデーと、ここ数年で浸透してきた恵方巻きについてお伝えします。

日本と海外、バレンタインデーはどう違う？

いまではすっかり日本に定着したバレンタインデー。女性が意中の男性に愛を告白する日とされていますが、その起源はどんなものだったのでしょうか？

バレンタインデーを英語にすると「St. Valentine's Day」。つまり「聖バレンタインの日」となります。バレンタインとは人の名前だったのです。

バレンタインデーの起源については諸説ありますが、古代ローマのバレンタイン・カードに由来するという説もそのひとつです。当時のローマではキリスト教は禁じられていましたが、その活動が絶えることはありませんでした。熱心

なキリスト教の司祭であったバレンタイン(ヴァレンチヌス)はローマ政府に投獄された挙句、処刑されてしまいました。

その日が2月14日なのです。バレンタインは処刑されるまでの間、病気の子どもや戦地にいる息子を待つ母親を勇気づけたり、また自らの恋人や家族に、無償の愛をしたためた手紙を送ったそうです。こうした行為が後に、愛し合う男女が互いにカードを贈りあう習慣になつていったといわれています。

このカードを贈りあう習慣が徐々に花束やケーキ、そしてチョコレートなどのバリエーションを増やしていったと考えられています。

ただし、日本のように女性から男性へ向けてチョコレート添えて愛を告白

するという習慣は海外ではあまり一般的ではないようです。

今どきのバレンタインデー

日本でバレンタインデーに消費されるチョコレートは、一年間に販売されるチョコレートの約1割程度といわれているほど、バレンタインデーはいまや国民的行事になっていますが、その内容がどんな様変わりしているのをご存知でしょうか？

女性から男性へ愛を告白する「本命チョコ」、会社などでの社交辞令をかねた「義理チョコ」などは一般的ですが、最近では男性が女性に贈る「逆チョコ」や女性が女性に贈る「友チョコ」、がんばった自分へ贈る「ご褒美チョコ」など



も登場しています。

とくに昨年あたりから目立ちはじめたのが「DECOCOチョコ」。メールだったら「デコメ(デコレーションメール)」、携帯電話だったら「デコ電」など、なにかとデコレーションを施したがる中高生や若い女性の間では今や定番。チョコもキラキラとオシャレにデコレーションするのが当世風です。

手作りチョコプレートだけでなく、デパートや専門店、コンビニなどの市販のチョコでも、自分の写真をデコレーションして印刷するものが登場するなど、オリジナリティがあるチョコに仕立てるアイデアがあふれています。

バレンタインデーは甘くておいしいチョコプレートを食べながら、自分らしく楽しむイベントになっているのかもしれないね。

恵方巻きってどんなもの？

ここ数年節分のときに必ずといっていいほど話題になる「恵方巻き」という食べ物をご存知でしょうか。恵方巻きの名前は聞いたことがあっても、由来まではご存知ない方も多いかもしれませんね。

この恵方巻きのいわれについては諸説

あるようですが、大阪など関西で生まれたという説が有力のようです。

七福神にちなんで、シイタケやだし巻きタマゴ、桜デンプやカンピョウ、キュウリやタクアンそしてウナギなど7種類の“福”を巻き込んだ太巻きを、目を閉じて、願い事を頭に思い浮かべながら、恵方(今年は南南東)を向いて“丸かぶり”します。このとき一言もしゃべらず黙っていたきます。それは、しゃべると福が逃げていくと考えられているからです。この恵方巻きを節分にいただくのは、立春の前日にある節分が一年の災いを払う厄落としてであり、恵方巻きもその年中行事のひとつと考えられているからなのです。無病息災、商売繁盛を願って、丸かぶり“してみるのもいいかもしれませんね。”

恵方巻きの作り方



七種類の具を



巻いて



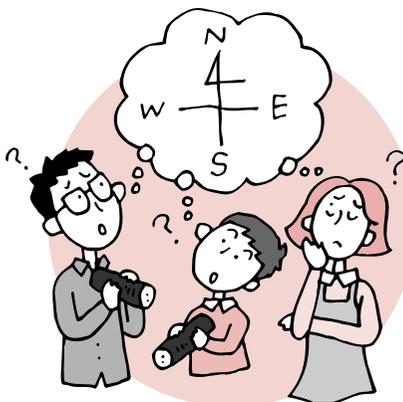
できあがり!

福を呼び込む恵方巻き 食べる向きがある

其の一

食べる向きがある

恵方は毎年変わるため、その年の縁起のよい方向(今年は南南東)を調べましょう



一本かぶりつく

運が切れないようにかぶりつきます。具材はカンピョウ、キュウリ、だし巻きタマゴ、ウナギ、桜デンプなど七福神の「7」にちなんで7種類

其の二

黙って食べる

しゃべると福が逃げると思われています。食べ終わるまで、一言もしゃべらないのが決まりです

